

## 入賞

一般建築物の部

建築主：市原DMO（一般社団法人市原市観光協会）

設計：kurosawa kawara-ten

施工：kurosawa kawara-ten

所在地：市原市朝生原818-1

～古いモノ×デザインで生まれる新しいモノとコト～

# いちほらライフアンドワークコミッションオフィス

本作品は、空き家の改修・活用を促進するために設立された「いちほらライフ&ワークコミッション」のオフィスである。プログラムの意図を具現化したかのようなこの拠点は、空き家を活かし、そこにある様々なものに価値を見出し、デザインの力で魅力的なものに昇華し再利用するという姿勢は揺らぐことなく一貫している。

ファッションの世界ではSDGsの影響もあり、古着をリメイクして新たなデザインとして再生したり、売れ残った商品を組み合わせ再構築することで新しいデザインを生み出すといった流れがあり、新鮮でスタイリッシュかつクールと捉えられているが、この作品も同様で、異なる



内観

受付より打合せスペースと事務スペースを見る  
(撮影全て/千葉 正人)

デザインのガラスが隣同士

で配置され、地元の雑木を乾燥製材した真新しい木材と時間の経過を感じる木材が混在する様子は、景色の新鮮さに加え、それぞれから想像される履歴が温かみを感じさせ、それらが絶妙に組み合わせさり、新たな価値観を提示されている感覚になる。

そして、この作品の最大の魅力は若い世代がプロジェクトを推進する中心となっていることである。ワクワクという言葉を全身にまとい活動する様子は、エネルギーに溢れている。本作品は一過性でない次の世代の価値観醸成に寄与するに違いない。

(加藤 未佳)



正面入口

## 入賞

住宅の部

～コストパフォーマンスの高い狭小ながら、  
住み心地の良い都市型住居～

# 唯・巧・居の家

本作品の周辺エリア(松戸市)は近年都市化による居住空間の過密化が進み、プライバシーの確保が困難な弊害を抱えている。そこで、集まって住まうアフォーダブルな分譲住宅として、改善の糸口たる都市型居住のあり方(建築面積:49.7~55.2㎡、延べ面積:97.6~99.9㎡、地上2階)が提案された。

それは、都市型住居における「自然な集住の距離感」をデザインすることである。この「程良い」距離感を確保するにあたり、小規模ながら「庭」をキーワードにした住戸プランとの接し方や使い方、さらに四季折々の「気配」、「繋がり」、「関わり」に3つのバリエーションを持たせることとした。それぞれ「縁庭(へりにわ)」、「斜庭(はすにわ)」、「路庭(みちにわ)」と名付けられた。

住まい手は日々の暮らしの中で近隣との繋がり方、関わり方を気分と目的に合わせて、高めの天井高や開口部とともに自由に選択、調整することができる。そして、暮らしに楽しさや心地良さが与えられ、家の中だけでなく外の街へと染み出す。拝見したお宅の住まい手が見せた満足度はその実態を表している。優れた都市型分譲住宅の可能性が評価され、住宅の部での入賞を得た。

(岩村 和夫)



南側正面写真



縁庭(へりにわ)が生み出す、  
適度なお互い様の心地よさ